

東山オールドスターズ

岡本卓也

人 物

沼田修（60）理髮師

清原省吾（12）小学生

宇野克哉（59）電気屋主人

西原隆三（80）無職

○床屋セブン外観（夕）

セブンと書かれた看板がかかった二階建ての一軒家。入り口前には青と白の模様が回る床屋の看板が見える。

○同中（夕）

鏡の前のバーバーチェアで気持ちよさそうに眠る西原隆三（80）の髭を剃っている沼田修（60）。後ろでは宇野克哉（59）が雑誌を読み自分の順番を待っている。部屋の角に置かれたテレビには、プロ野球のデーゲームが映し出されている。打席にはオリックスのユニフォームを着たイチローが立つ。気持ち良さそうに寝息を立てる西原。画面に熱中してほとんど西原を見ずに手を動かす沼田。フルスイングするイチロー、打球はバックネット裏のファールゾーンへ。我慢できない様子で、カミソリを宇野に渡しテレビの

前に座る沼田。戸惑う宇野。振り返り指で顔を剃る仕草を宇野にし、またテレビを見つめる沼田。恐る恐る西原の顔を剃り始める宇野。イチローがセントー前にヒットを打つ。手を叩いて飛び上がる沼田。驚きカミソリを落とす宇野。眠ったままの西原。宇野からカミソリを受け取り、西原の髭をまた剃り始める沼田。

アナウンサー声「イチロー、日本最多安打記録まで、あと4本に迫りました！」

沼田「西原さん、イチローあと4本ですよ」

目を覚ます西原。

西原「そう、あと4本か」

テレビの横には色褪せた古いカラー写真が一枚飾られている。東山高校と書かれた野球のユニフォームを着た高校生の沼田と宇野、監督らしき西原ら高校球児達がホームベースに並んで写っている。写真の中の沼田は一人俯き浮

かない表情。

○同外（夜）

⇒シャツ姿にバットを持って外に出て

くる沼田。左打ちに構え素振りを始め

る。真剣な表情で何度も素振りを繰り返

返す。素振りをやめ、汗を拭う沼田。

再びバットを握り構えた沼田は一本足

打法で素振りをする。首をかしげる沼

田。今度は振り子打法でバットを振る

。また首をかしげる。再び構えて最初

の構えで素振りをする。

沼田「やっぱり掛布が一番しつくりくるな」

そう言って素振りを続ける沼田。

○小学校のグラウンド

六十歳を超えた男性達が野球の練習を

している。ユニフォーム姿の西原がベ

ンチに腰掛けそれを見守る。ノックを

するのは宇野。背番号31をつけた沼

田はライトの守備についている。宇野
が高い打球をライトに打つ。足元が覚
束ない様子でボールの落下点に入り構
える沼田。ボールは沼田のミットをす
り抜け、沼田のおでこに当たり大きく
跳ねる。バックネット裏でそれを見つ
める清原省吾（12）。ベンチに座る
西原に声をかける宇野。

宇野「来週の決勝戦、ライトは沼田さんでほ
んまにいくんですか？」

西原「うん」

宇野「心配やなー、大事なところでハマするで
なーあの人」

ライトで首を傾げ不機嫌な表情の沼田

○セブン外観（夜）

動きの止まった床屋の看板が見える。

○回想（沼田の夢）

東山高校と書かれたユニフォームを着

た高校球児の沼田がライトに上がった
ボールを追いかけている。落下地点で
グラブを構える沼田。ボールはグラブ
をかすめ地面に落ちる。三塁走者がホ
ームに帰ってくる。0が続くスコアポ
ードの九回裏に1点が書き込まれる。
ホームベースで挨拶する選手達。俯き
暗い表情で記念写真に収まる沼田。

○セブン外（夜）

布団で寝ていた沼田が突然目を覚ます
。額には汗が滲んでいる。

○セブン中

タバコを吸いながらテレビを見ている
沼田。入り口の扉が開き、野球のユニ
フォーム姿にマッシュルームヘアーの
省吾が浮かない表情で入ってくる。バ
ーバリーチェアーの方に手招きする沼田
。荷物を置いて椅子に座る省吾。

沼田 「いつもと同じくらいでええか？」

黙っている省吾。

沼田 「なんや、違うんか？」

省吾 「野球部に入ることにした」

沼田 「そうか、母さんには言ったんか？」

省吾 「まだ」

沼田 「そりゃあかん、ちゃんと言わんと」

入り口付近にある電話に向かい、受話

器を手に取りダイヤルを回す沼田。

沼田 「あ、セブンの沼田ですが、今省吾が来てて、ちよつと変わります」

電話を受け取る省吾。

省吾 「あ、お母さん、あの、俺、、、」

そう言っつてしばらく突っ立っている省吾

省吾 「じゃ」

電話を切り、椅子に戻って座る省吾。

沼田 「母さん、何て言っつた？」

省吾 「お母さん、泣いとつた」

エプロンを省吾にかける沼田。

沼田 「お前の母さん、ビートルズ好きやでな

あ
」

そう言つて省吾のマッシュルームヘア
を撫でる沼田。

アナウンサーの声「さあイチロー、日本記録
まであとヒット三本です」

テレビ画面を見つめる二人。

○セブン入り口外（夕）

夕日がセブンに差し込む。丸坊主の省
吾と沼田がキャッチボールしている。

省吾「おっちゃん、明日決勝戦やる？」

沼田「うん」

省吾「勝つたら一部リーグ昇格やな」

沼田「うん」

キャッチボールを続ける二人。

○小学校グラウンド

バックネット裏に掲げられた横断幕。

京都府還暦野球連盟という文字が書か
れている。スコアボードには東山オー

ルドスターズ対宇治シルバースターズの文字。スコアは0対0、9回裏宇治シルバースターの攻撃。バックネット裏で試合を見つめる省吾。ランナーは二塁。一打サヨナラの場合。ライトの守備についている沼田。振り被りボールを投げるピッチャー、バッターはそのボールを打ち返し、ボールはセンターとライトの間に高く上がり飛んでいく。ボールに向かって走る沼田。落下してくるボールに頭から飛び込みグロブを差し出す。ボールは沼田のミットに収まる。大きな歓声。急いで立ち上がりボールを返そうとするが、ボールをうまく握れず、ボテボテのゴロのボールを投げ返してしまう。その間に二塁ランナーがホームに帰ってくる。スコアボードに1点が書き込まれる。

○路上（夕）

沼田、省吾、宇野、西原が並んで人気
のない一本道をユニフォーム姿で野球
道具を抱え歩いている。
省吾「おっちゃんの最後のキャッチ、すごか
ったなー」
何も答えず無表情のまま歩く沼田。宇
野電気と書かれた看板が掛かった店先
に到着する四人。店先のテレビには野
球中継が流れている。
アナウンサーの声「イチロー、日本記録まで
あと二本です」
打席に立つイチロー。じつとテレビを
見つめる四人。初球をファールするイ
チロー。ふーつと息を吐く四人。
省吾「おっちゃん、日本記録達成したら次は
どうするんやろな、イチロー」
沼田を見つめる省吾。
宇野「どうするんやろうなあ」
西野「大リーグやろなー」
省吾「大リーグか」

嬉しそうに微笑む省吾。画面を食い入るように見つめる沼田。第二球を振りかぶって投げるピッチャー、判定はボール。じつと画面を見つめ続ける沼田。三球目、バットはボールをジャストミートしセンター前ヒットになる。宇野「おし！」

笑みを浮かべる省吾、宇野、西原。アナウンサーの声「イチロー、センター前ヒットで日本記録まで残り一本としました」

省吾、沼田を見つめ、

省吾「すごいなーおっちゃん、イチローは」

少し笑みがこぼれる沼田、

沼田「そうやなー」

省吾「来年こそは一部リーグ昇格やな、おっちゃん」

省吾の方をじつと見つめる沼田。

沼田「そうやなー」

そう言っただけ嬉しそうにまたテレビのイチローを見つめる沼田。